



劇を見るだけでなく、演者と交流できるのも楽しみの一つ



「唄がたり日本昔ばなし」上演前に開催した三味線のワークショップ。さまざまな体験ができるのも、おやこ劇場の魅力です

招聘した劇団員が書いた色紙は、例会を開いた数だけ飾られています



「あちよぼ」の様子。仲間がいるとかくれんぼやボール遊びができるだけでなく、遊びの幅が広がります



おやこまつりでは「人間狩り」というゲームをしたことも。子どもの希望を可能な限り実現しています



例会の日、小夜食係の子たちで作った差し入れ



きらりんサークルといちごさくらんサークル合同の手振り。大きな羊がたくさん採れました

### 巻頭特集

芸術鑑賞や遊びで、子どもたちの人間力を育む

# 豊明おやこ劇場

舞台芸術を通して子どもの豊かな心を育むおやこ劇場。

1966年に福岡で始まり、全国に広がりました。

豊明おやこ劇場は、会員だけでなく地域とのつながりを大切に交流の輪を広げています。



ハンモックは、おやこまつりで設置。子どもたちは大喜びです



1年間の予定表。掲示物や配布物は全て手作りです

## 子どもの意志を大切に 積極性と主体性を育て

「ただいま」と部屋に入ってきたのは、豊明おやこ劇場の会員たち。住宅街の中にある「軒家」おやこの「おうち」には近隣の人から譲り受けた家具や、会員が持ち寄ったおもちゃが並び、心温まる空間が広がっています。「おやこのおうち」は、豊明おやこ劇場の活動拠点。より多くの人に利用してもらいたいと、ビルの一室から「軒家」へと昨年移転しました。

現在の会員は、0歳から子育てを終えた70代までの109人。舞台芸術を觀賞したりサークル活動に動んだりして、会員同士の交流を育んでいます。サークル数は16。2歳からの「びよびよ」や、子育てを終えた親世代の「TKO48」など、サークルは世代ごとに分かれています。「おやこのおうち」は、サークル活動でも使用が可能。毎日開放されており、宿泊もできます。

「優れた芸術に触れて想像力を育むのはもちろんですが、一番の目的は、豊かな心の育成です」と話すのは、事務局員の小田早樹子さん。

「子どもの意志が大事」という考えは会員たちの共通認識。「子どもが馬に乗りたいと言った時、サークルのメンバーを誘って愛知牧場に行きましたね」と話すのは、運営委員長の高橋花乃子さん。子どもの要望を「ダメ」と拒絶するのではなく、「一緒に楽しむ姿勢を大切にしています」。

会の運営を子どもに一任し大人は

た場合は話し合いで決めています。

また、上演前には演者との交流会を実施し、劇への理解を深めます。時には、劇にちなんだワークショップを開催。クラウンが登場する「びりとブッチャー」の開演前には顔にメイクを施し、キャラクターに扮するひとときを楽しみました。

## 外部との輪も広げる 人のつながりを大切に

会員以外が参加できる活動も、少しずつ増えています。「二人よりも集団で遊ぶ方が楽しい」という思いからスタートしたのが、3歳未満の子と親を対象とした野外活動「あちよぼ」。第1、第3火曜日に落合公園や勅使公園、三崎水辺公園で活動しています。遊びを通して子どもの感性を育んだり、親の意見交換の場になったりと、仲間の輪を広げています。

さらに3年前から、保健センターの1歳半健診でボランティアを開始。待ち時間を利用して子育ての相談を受け付けています。「好評だったよ」で、保健センターからまた来てほしいと声を掛けていただいています」と小田さん。11月5日の豊明秋まつりにも参加するなど、地域とのつながりを深めています。

「世の中にはいろいろな人がいて、中には気が合わない人もいます。そんな相手に対して、いかに寄り添うかを考える姿勢が豊かな心を育むのだと思います。子どもたちには今以上に多くの人と触れ合い、育ち合ってもらいたいです」と小田さん。

サポートに徹するなど、子どもの主体性を大切にしています。春の「おやこまつり」では、子どもにリクエストを募り、内容を決定。まつりには不向きな内容に対しても柔軟に取り組み姿勢からは、積極性を育みたいとの思いが伺えます。

子どもたちのトラブルは付き物ですが、大人は介入することはほとんどありません。「トラブルは成長のチャンス。叩かれて泣いた子は「やめて」と言えるようになったり、おもちの取り合いでは、順番を守ろうと子ども自身が提案できるようになりました」と高橋さん。子どもが持つ力を信じている会員だからこそ、解決するまで見守ることができるといいます。

## 子どもの力を信じて 話し合う過程を大切に

豊明おやこ劇場の主な活動は、舞台芸術鑑賞です。まずは、会員向けにアンケートを実施。結果をもとに活動テーマを決め、上演する劇を選定していきます。「アンケート実施から、内容決定までに6カ月。大人が決めてしまえば早いのですが、子ども同士の議論を重視しているため、時間がかかります」と高学年グループ長の則武あかねさんは話します。これまでに、「劇団うりんこ」や「若い企画」などを招聘。商工会館ホールや勤労会館などを会場に、幅広い年齢が觀賞しています。

当日の受付や司会、楽屋の準備、軽食の用意も子どもが担当。サークルごとに担当を選び、希望が重なった場合は話し合いで決めています。「今後はもっと仲間を増やし、子どもにも多くの体験をしてもらいたい。活動の回数も増やしていけたら」と則武さんが続けます。



事務局員 小田早樹子さん  
11月まで事務局長として活躍していました。小田さんの膝の上には、たくさんの子どもが集まります



運営委員 高橋花乃子さん  
小学校低学年の頃から豊明おやこ劇場の会員。現在は3歳半の子どもと一緒に在籍しています



高学年グループ長 則武あかねさん  
11月まで運営委員長を務めた則武さん。子育てについて語る表情は真剣です



事務局員 久保田圭代さん  
11月から事務局長に就任しました。会員の中心となる、欠かせない人物です



**豊明おやこ劇場**  
豊明市栄町南館3-917  
TEL・FAX 0562-87-2475  
https://ameblo.jp/toyoakeoyako/  
入会金200円 会費月額1,200円  
4歳以上から会費が必要  
※子どもだけの入会不可 ※3カ月以上の継続必須